

熱性けいれんの予防のために、発熱時に「ダイアアップ坐剤」という抗けいれん剤を使用することでけいれんを予防します。以下の注意点をお読みください。

- 発熱したらダイアアップ坐剤を 8～12 時間間隔で 2 回使用することで、ほとんどの熱性けいれんを予防することができます。
- 37.5°Cを超えたらダイアアップ坐剤を使用しましょう。
 - 高熱が出てからでは、けいれん予防が間に合わない場合があります。
 - 37.5～37.9°Cの間は必ずしも「発熱」ではない場合があります。ダイアアップを使用したものの、それ以後すぐに平熱になった場合は、2 回目のダイアアップの使用を見送りましょう。
- 38.0°Cを超える発熱があったら、8～12 時間の間隔においてダイアアップを 2 回使用しましょう。
 - 38.0°C以上の体温を認めた場合「発熱」の可能性が高いです。数時間後に平熱となっていたとしても一時的な解熱の可能性もあります。
- 1 回の発熱につき、ダイアアップは 2 回の使用です。
 - 1 日のうちで体温が上がったり平熱になったりを繰り返す場合があります。解熱期間が 24 時間以内の場合、発熱は継続しているものと考えてよいです。ダイアアップを再度使用する必要はありません。48 時間以上平熱になってから発熱した場合、前回とは別の発熱の可能性が高いです（インフルエンザを除く）。ダイアアップを再度 2 回投与することを検討しましょう。24～48 時間平熱の後に発熱した場合は一続きの発熱の場合もあれば別の原因ということも考えられます。状況によってはダイアアップを再投与することも考えられます。可能であれば当院にご相談いただくのも一法です。
- ダイアアップ坐剤と解熱鎮痛剤の坐剤の間隔は 30 分以上空けましょう。
 - ダイアアップ坐剤と解熱鎮痛剤の坐剤を同時に使用すると、ダイアアップ坐剤の吸収が悪くなります。
 - ダイアアップ坐剤と解熱鎮痛剤を使う順番はダイアアップ坐剤を先に使用しましょう。
- ダイアアップ坐剤を使用した場合、転倒転落事故に気をつけましょう。
 - ダイアアップ坐剤を使用すると、眠気ふらつきの副作用があります。特に高いところからの転落による頭部打撲は熱性けいれんより危険な場合があります。
- 使用するかどうかは体温のみを基準としましょう。
 - けいれんする前は具合が悪いとは限りません。子どもの元気さとは関係なく、発熱したら上述のように一定のルールに従って坐剤を使用しましょう。
 -